松村通信第１１４号

2021 年 1 月 7 日
松村勝弘

中国文化を知る

皆様明けましておめでとうございます。

易中天　私が親しくさせていただいているＳ先生から易中天『中国智慧』という本をご紹介いただいた。いま中国でベストセラーになっているという話だが、残念ながら邦訳されていないので、その詳細は分からない。その本を紹介しているサイトから見ると、易中天は湖南長沙の人であり、1981 年に武漢大学を卒業し、文学修士号をとり現在は厦門大学の教授とのことだ。文学、美学、心理学、人類学、歴史学と多岐にわたって研究をされてきているようである。書評によると、本書は「易経」から唐代の禅宗・浄土宗の確立まで、1800 年ほどの間に形成された、思想家のエッセンスと 6 種の思想圏の成り立ちが書かれているという。易、孔子、孫子、老子、魏晋時代の玄学、禅宗の 6 つである。6 種の思想圏は連鎖していて、今なお中国人の胸の底に折り重なり、思考様式や価値観の鋳型になっているという（https://globe.asahi.com/article/13693231）。読んでみたいと思っているが、残念ながら私には中国語が読めない。早く翻訳が出ないだろうかと思う。

ただ易中天という人はいろんな著書を書かれているようで、これを仲曄慶という人が翻訳してくれている。『名城大学人文紀要』に 13 回にわたって連載されている。とりわけ、連載の前半 7 編は「中国文化」について書かれている。『**闲话中国人**（中国のゴシップ）』という本の紹介である。その中の「メンツ（面子）」「人情」「飲食」「服飾」「家庭」「婚姻」「単位（Danwei）」の七つについて書かれている（なお、飲食、服飾、家庭の分はアルバ・ハインツとの共訳である）。大変興味深かったので、今回はこれを紹介してみたい。なお引用文の後の（）内は『名城大学人文紀要』の巻号と頁数である（同じ号からの引用は頁数のみを示す）。

メンツ（面子）　面子とは対面でもある。その中の一つが服飾である。「服装が着る人の身分や場所柄にふさわしくないことは、メンツのないことである」（37[1]41）と言われている。それは中国文化の核心が（日本も結構そうであるが）「群体意識」（人間は群れ、関係の中に存在するという意識）にあるからだという。いわば人間関係重視なのである。すなわち、「すべての人間が個個人として独立的に存在するのではなく、人の群れの中の一部分として始めて存在するという、人間の捉え方」（42）を群体意識という。メンツは他人に見せる顔でもある。ただ具体的な顔そのものではなく、演劇的な面であり、役を演ずるのと同様、社会生活上のその人の格式を意味する。日本でも顔を立てるとか、顔を潰すとか言うが、中国でもそのようだ。

これらは日本と同じで、欧米の個人主義と対置できる。私はこれは、欧米にはない、東洋の良さのひとつだと思っている。人間関係重視は、人をして心安らかに生活させる、ある種の居場所だと考えている。

メンツと人情　また、メンツ（面子）と人情は関係が深く、人情に関係するところに必ずメンツも関係してくると言われている。これを一つの単語「情面」と呼ぶ。情面を蓄えるのに最も頼りになり、有効な方法は、顔を合わせることだと言われている。大晦日・正月などは顔合わせに最も良い機会だという。校友会・同郷会なども情面を蓄える有効な方法だと言われている。中国では顔を合わせることが大切にされており、だから別れ際に「再見」（また顔を合わせよう）というわけである。顔を合わせることは大事なわけである。そして「人情もメンツも、いずれも『群体意識』から由来するものである」（39[1]53）と言われている。

「中国文化の『群体意識』のもとで、人々は人間関係の中で、自分を他人に演じて見せる必要があり、しかも演じて始めて人間となることができ、……中国文化にとって、人間性の中の最も美しい部分は、『情』である」（55,61）という。これを見ると、日本とどこが違うのと思ってしまう。日本・中国ともに明らかに西洋の個人主義とは相対立しているように思う。

飲食　「中国は恐らく世界の中で、ご馳走することが最も好きな民族である……、現代の中国においても、オフィスや会議室で解決できなかった問題を、食卓で解決するケースがしばしば見られる」（40[1]55）という。これなど世界的にもある程度当てはまるだろうけれど、日中に共通しているように思う。さらに次の文章には納得させられる。「客を招いてご馳走する意味は、『客に食べさせる』ことにあるのでなく、『一緒に食べる』ことにあり、つまり、『同じ釜のご飯を食べる』よしみにある」（65）という。なるほどだ。

服飾　つぎに「服装」について考えてみよう。中国で「衣食住行」とか「衣食父母」などと

いう単語に見られるように「衣」「食」は重要な文化をなしている。歴史上「黄帝、堯、舜、服装で天下を治める」(41[1]56)と言われたくらい、服装は大切に考えられていたそうである。「中国文化の中で、服装はまず文化の象徴である」(56)という。大事な場面のために、「体面」を保てる衣服、「礼」にあった衣服を着ることが重要視された。「場所に合う」「身分に合う」服装が求められた。

「衣」であるが、中国語の中で、もともと二人の人間の関係を表している、人と人の関係を表す漢字であるという。まさにここでも「関係」「群体意識」が出てくる。儒教で（関係の中でも重要な関係）子が親に従う「孝」が重要な徳目であるのは周知のところである。

家庭 中国社会は「家本位」によって成り立っているという。「具体的に、『家本位』は、『家単位』、『家天下』と『家倫理』という三つの文化特徴によって構成されている」(41[1]81)という。そして、大変興味深くて、かつ重要な指摘がなされている。「思想の核が『個体意識』である西洋文化において、国家が個人によって構成され、政府が直接国民を管理し、国民は直接国家に対して義務を果たし、家庭という中間層は余計な存在であり、しかし、政府も個人によって構成されているため、個人が個人を管理する状況の中で、法律が必要となり、『法律の前ですべての人が平等である』という理念の下で、政府も国民も法律のコントロールのもとに置くことで、社会や国家の安定が保証されている。それに対して、中国の状況がまったく違っており、思想の核が群体意識である中国文化において、家庭は最も基本的、天然的、安定的、信頼できる群体であるため、家庭を基本的な単位とした『家本位』的な国家様式が形成され、『家本位』から成り立っている国家は、『家倫理』に従って国を治めるという文化的な特徴を持っている」(84)という。これは中国を理解する際に大変重要だと思う。

伝統的な中国の国家は、「家倫理」を用いて国を治めたと言うが、では「家倫理」とは何か。それは「内と外を区別して取り扱う、関係の親疎を定める、年齢によって順序を決める、身分の高低を明確にするという四つの基本原則がある」(84)という。長幼の序列など日本人にも容易に理解できるが、そのほかはなかなか実感できない。とりわけ、現代ではどれほど今も根付いているのか、認められているのか、このあたりの説明がやや少ないように感じた。きっと中国人には実感を伴って理解されるのであろう。血縁と血統なども中国と日本では異なる。日本では養子縁組など血統にこだわらずに「家」を守ろうとするが、中国では血統を重視する。

婚姻 中国では血統を重視するから、婚姻も血統を絶やさないために重視される。一人っ子政策がとられるなかで、血統を絶やさないようにするためにどうしているのか、この点の説明は必ずしも明快ではない。ただ政府が男女交際の場を用意しようとするなど、ここには微妙な問題がありそうである。

単位(Danwei) 「単位(Danwei)」は職場を意味する。そしてその「単位(Danwei)」＝職場は「飯茶碗」すなわち食べさせてくれるので生活の種なのである。「『民が食を天と見なす』の中国において、『飯茶碗』に等しい『単位(Danwei)』は極めて重要である。」(45[1]55)「民が食を天と見なす」すなわち王朝が庶民に食べさせることができなければ民心を得られず、その王朝は滅びる。王朝は最大の単位である。現代で言えば「単位(Danwei)」は職場、会社などであり、それは人々の身分や地位を意味することになる。「さらに『単位(Danwei)』は『人情』でもある。二人の人間はそれぞれ属する『単位(Danwei)』の間に関係があれば、その二人が知り合いかどうかに関係なく、二人の間に『人情と面子』があることになる。」(55)

「単位(Danwei)」は面子や人情であるだけでなく、「『父母』や『家庭』の役割も果たしている。」だから会社などが、仕事の手配をはじめ、衣食住の手配、さらにはレクレーションの手配をし、従業員の冠婚葬祭を取り仕切り、学習会を開き、退職者の生活の面倒を見るなど、様々な機能を果たすという(56)。「『単位(Danwei)』はただの職場だけではなく、『群体意識』を強化する、『群体』関係を維持する機能を持つ場である。」(57)これを読んで、日本の会社も社員の福利厚生まで手配するのとまったく同じだと思ったし、日本以上に従業員との関係を重視しているのが分かった。

当然そこに問題があることも指摘されている。それが「『単位(Danwei)』間の人材の流動を妨げ、『単位(Danwei)』がよどんだ水たまりのように活気のない所になっている原因である。さらに、弟子が師匠の後継者、学生が先生の後継者になることによって、『単位(Danwei)』がますますその活力を失うのである。」(64)これも日本と同じである。現在の中国はこれを改革しようとしている。日本も同じ問題を抱えているように思う。

ＨＰ，ＦＢを見て下さい。又何でも意見を。
皆さんのご意見を歓迎します。HP（http://www.ritsumei.ac.jp/~matumura/）もご覧下さい。**フェースブック**もやってます。また，メールで意見交換しましょう。メールをよこして下さい（matumura@mba.ritsumei.ac.jp）。